

「日本内視鏡外科学会」理事長退任にあたって

日本内視鏡外科学会
北島政樹

本年1月の理事会におきまして、理事長職を6年間無事に全うし退任することになりました。これも一重に理事、評議員の皆様方の心温まるご理解とご支援の賜と感謝しております。2003年に理事長に就任させていただきましたが、当時は前理事長の出月康夫先生の学会発展の業績とリーダーシップを目の当りにしていましたので、何とか自分も追いつくようにという思いでありました。

まず、本学会で山川達郎元理事を中心に議論されておりました本学会が誇る技術認定制度の推進に努力いたしました。木村泰三委員長の指導力により制度と活動が軌道に乗り今日に至っております。その後考えたことは学会の活性化、イノベーションの重要性であり、内視鏡外科ガイドラインの制定、医工連携による物造りコモンズとの連携、さらには看護師やMEの学会参加の為のメディカルチーム検討委員会を設置し、学会として幅広い活動を推進してまいりました。これらの活動が周知徹底され、会員も本年度は1万人を超す大学に発展いたしました。また在任中に内視鏡外科を今日の手術の主流となるべく努力され、また学会に多大な貢献をした故大上正裕君を称えるために大上賞を設置いたしました。大上君とは私が2000年に第100回日本外科学会を主催した折にアジアで初めて手術用ロボット da Vinci™ を日本に導入し、ライブデモンストレーションを行った楽しい思い出が残っております。さらに本学会の国際化推進のために米国内視鏡外科学会 ASES と JSES の合同シンポジウム、また情報を世界に向けて発信するために Asian Journal of Endoscopic Surgery の発刊、および本年度は学会創設史上初の外国人の名誉会長3名を推戴いたしました。本年度の学会で名誉会員授与式を行う予定になっております。

今後は前述の「物造りコモンズ」を医工連携委員会と共にコモンズ代表として12学会の協力のもとに医工連携による医療機器の開発、あるいは政府などへの提言を行っていく予定であります。また昨年11月18日に手術用ロボット da Vinci™ が厚労省から承認を受け、今後の展開のためにも本学会が基幹学会となり、ロボット手術トレーニングとガイドラインの制定を行うことが決定いたしました。

多くの専門学会と協力し、本学会の教育委員会、ガイドライン委員会が指導的立場で推進していく予定になっております。

今後は低侵襲・個別化医療が要求されていく時代背景の中で内視鏡外科の重要性が一層増すと思います。

最後に日本内視鏡外科学会の益々のご発展を祈念して退任のご挨拶と代えさせていただきます。

